

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up

クローズアップ 教育プログラム

「将来、社会で活躍する君たちへ」
小学校高学年・中学生向け新プログラムが完成

Honda は様々な年代や社会のニーズに合わせた交通安全教育プログラムを開発し、地域の交通安全指導者に提供している。子どもたちは幼児期や小学校入学後の交通安全教室で、交通安全の知識や事故に遭わないための安全行動を学ぶ。そこで身につけたことを、それ以降も実践することの大切さに気づいてもらうため、小学校高学年・中学生を対象とした新たなプログラムを今年、完成させた。



ルール・マナーを守ることを
次代を担う子どもたちに習慣化してほしい

小学校高学年や中学生は既に交通ルールやマナーを学んでいる。しかし、知っているだけで、なかなか行動に結びつかないという現状もある。完成したプログラムは、子どもたちに日頃の行動を振り返りながら交通安全意識の向上と他者への配慮を促すことを目的とし、タイトルの「将来、社会で活躍する君たちへ」には、社会生活を豊かに送る上での基本である「ルール・マナーを守り、習慣化させる」ことにより、次代を担う子どもたちが交通安全を自分事にとらえ、事故に遭わないようにしてほしいという想いが込められている。このプログラムは導入と本編で構成されている(2面参照)。導入は HondaJet や Super Cub の画像を提示し、画像を見ている間に一部が消えるなど変化した箇所を子どもたちに見つけてもらうというもの。これから始まる交通安全教室への関心や集中力を高める役割を果たす。また、周りへの少しの気遣いで誰もが気持ちよく安全に過ごせることを感じてもらうため、昨年開催されたサッカーワールドカップで日本人サポーターが試合後、自発的に観客席のゴミ拾いをしたエピソードを紹介する映像も用意している。



ルール・マナー違反をしている場面を見つけようと、映像を見つめる児童



どこでルール・マナー違反をしていたか、どのような危険が考えられるかを児童が発表

Contents

- P1 Close Up クローズアップ 教育プログラム
- P4 Close Up クローズアップ 交通教育センター
- P5 Close Up クローズアップ 四輪販売会社
Safety Info インフォメーション
- P6 SJ Interview (一財) 日本自動車研究所 主任研究員 大谷亮さん
- P7 All About SAFETY 安全をいかに創造するか
- P8 危険予測トレーニング (KYT)
SJ クイズ



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

ホンダ SJ

検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>
編集人：中嶋英彦

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

本編は「歩き」「自転車」「標識」の3つのテーマからなる映像教材。それぞれ単独で選択できるため、交通安全指導者が学校などの要望や実施時間に依りて組み合わせをアレンジできるようになっているとともに、場面ごとに子どもたちに問いかけながら進める対話型構成になっているのも特徴である。

「歩き」「自転車」のテーマでは、問題編で守るべきルール・マナーについて危険予測や他人への配慮の観点から起こり得る事故や事故による影響について考えてもらう。小学校高学年や中学生が歩行中、自転車乗中にやっと思い間違いがちなルール・マナー違反の映像を見せた後、指導者が児童・生徒に問いかけ、色々な意見を引き出しながら進められるようコーチングの手法を取り入れている。そして、解説編で飛び出しの危険性と止まること、確認することの重要性を理解してもらう。これに加え、「自転車」では安全な走行方法について、法規に則った模範運転を映像で確認できるようになっている。

「標識」は、生活の身近にある道路標識が「何を伝えているのか?」「なぜ守らなければいけないのか?」考えるきっかけを与えるためのものである。全国各地の珍しい動物標識や、浅草駅から東京スカイツリーまでの散策の映像を通じて、一時停止や歩行者横断禁止など最低限覚えてほしい7つの標識を紹介している。プログラムは、8月8日、9日に Honda 青山ビル(東京都港区)で地域の交通安全指導者を対象に開催した交通安全教育プログラム勉強会(3面参照)で発表され、導入と本編を収録したDVDが参加者に手渡された。

「将来 社会で活躍する君たちへ」の構成

導入	HondaJet 1分43秒	Super Cub 1分43秒	サッカーワールドカップ 1分13秒
本編	歩き 問題編 解説編 8分56秒	自転車 問題編 解説編 安全な走行 13分53秒	標識 標識の種類 浅草散策 3分30秒

本編「歩き」「自転車」「標識」の指導例

		流れ	指導ポイント
歩き ／ 自転車	問題編	「歩き」では家から塾へ向かう映像、「自転車」では家から体育館へ向かう映像を流す ↓ 映像にいくつかのルール違反やマナー違反があったことを伝え、再度、同じ映像を流す ↓ 違反だと思ったところで、手を上げて、答えてもらう ↓ 違反によって起きた事故映像を流す ↓ どうすれば良かったかを指導者が問いかけ、安全な方法を話し共有する	・日頃の自分の行動を振り返ってもらい、意見を引き出す ・危険予測や他人への配慮の観点で事故を考えてもらう ※取り上げるルール・マナー違反 「歩き」 ①歩きスマホ ②駐停車車両の直前直後の横断 ③信号無視・横断歩道外の横断 ④歩道における他人への配慮 ⑤飛び出し 「自転車」 ①交差点での右折 ②歩道での歩行者妨害 ③点字ブロック上の駐輪 ④並進・車道の右側通行 ⑤一時不停止
	解説編	歩き ・子どもの歩行中の交通事故原因で最も多い「飛び出し」の危険性と、止まることの重要性を説明するための映像を流す 自転車 ・止まることの重要性を説明するための映像を流す ・問題編と同じ場面を安全に走行する映像を流す	・空走距離、制動距離、停止距離などクルマが止まるまでの過程を示す ・クルマはすぐに止まれないこと、遠くに見えていても予想以上に速く近づいてくることを理解してもらう ・見通しの悪い交差点を通過する時は止まって、右、左、右、右後ろを確認することで、周囲の状況をはっきり認識でき、安全であることを理解してもらう ・安全な走行方法を確認してもらう
標識	標識の種類	・全国にある珍しい動物標識の紹介 ・標識の種類を信号機の色と関連づけて紹介	・標識に興味を持ってもらう ・赤い標識は規制標識、黄色い標識は警戒標識、青い標識は指示・規制/案内標識
	浅草散策	浅草駅から東京スカイツリーまで散策する途中にある7つの標識の名前と意味を質問し、答えてもらう	生活の身近にある道路標識が「何を伝えているのか?」「なぜ守らなければいけないのか?」考えるきっかけを与える

ルール・マナー違反の場面を見つけ出し、起こりうる事故を考えてもらう

勉強会に参加した鹿児島県鹿児島市・安心安全教育指導員（以下、指導員）の前田靖代さんと田丸博子さんは、9月11日に同市立荒田小学校の全児童409名を対象にした交通安全教室で、このプログラムを取り入れた。交通安全教室は体育館で1・2年生、3・4年生、5・6年生の3回に分けて行われる。3・4年生と5・6年生に本編「自転車」を活用した。

「今から、自転車に乗っているお兄さん、お姉さんの映像を見て、交通ルールを守っていない場面や、危険な乗り方をしている場面を発見してほしいと思います」と指導員が説明し、問題編の映像をスクリーンに映し出す。中学生が家から目的地の体育館まで友人と自転車で向かうという3分弱の映像が終わり、ルール・マナー違反があった場面を尋ねると、児童が次々に「右に曲がる時、交差点の真ん中を走っていた」「人が歩いている間をクネクネしながら走っていた」「歩く人の邪魔になる場所に自転車を停めていた」「車道を2台が並んで走っていて、クルマとぶつかりそうになった」「『止まれ』の標識があるところで止まっていなかった」と意見を述べた。

再度、確認のため、映像を流す。1回目の映像ではルール・マナー違反をした中学生は事故に遭わないが、2回目は事故になった場合の映像が追加されている。例えば、交差点を右折する場面では、自転車は対向車がまだ遠くにいるからと、2段階右折をせずに交差点をショートカットして曲がっていく。ところが、対向車の死角にバイクがいて、そのバイクと衝突してしまう。また、一時停止標識を無視して止まらずに交差点内に進入する場面では、右側から来たクルマと衝突してしまう。このようなルール違反のほか、マナー違反も取り上げている。駐輪の場面では歩道にある点字ブロックの上に自転車を停めたため、そこを通りかかった目の不自由な歩行者が前に進めなくなってしまう。違反のあった場面ごとに映像を止めて、「どのようにすれば良かったのでしょうか?」と児童

に問いかけ、考えてもらう。

「皆さんは、ルール・マナー違反をすべて発見することができました。でも、見つけれただけではいけません。一人ひとりが映像に出てくる中学生のような乗り方をしないことが大切です」。

“知っている”から、“している”へを普段から行動として実践してもらうために

ここから解説編へ。「交差点に『止まれ』の標識がある場合、停止線の手前で一時停止しなければいけません。なぜ、一時停止が必要なのでしょう?」と、止まることの重要性を説明するための映像を流す。自転車利用者の目線で撮影した映像を使って「①一時停止、左右を確認せずに走行した場合」「②一時停止をせず、一瞬右、左を確認して走行」「③一時停止をして右、左、右、右後ろを確認」という3つのケースで、周囲がどのように見えているのかを児童に比較してもらうことがねらいである。①では前方しか見ていないので、交差する道路の状況はまったくわからない。②では歩行者やクルマがいることはわかるが、止まっているのか動いているのかまでは判断ができない。③では、歩行者やクルマの動きなど周囲の状況をきちんと把握することができる。「一瞬見るだけでは確認しているといえないことがわかったと思います。『止まれ』の標識がある場所や見通しの悪い場所を通る時は、必ず止まってまわりの様子をしっかりと確かめてください」と指導員が強調した。

そして、「自転車の安全な走行を確認してみましょう」と、問題編の場面を中学生たちがルール・マナーを守って自転車に乗っている映像を流す。解説編に入る前に、どのようにすれば良かったか考えたことが正しいか、児童一人ひとりに映像を見て確認してもらうのである。スクリーンには「“知っている”から、“している”へ」というメッセージが映し出され、指導員が「事故に遭わないためにも道路を歩く時、自転車に乗る時は、皆さん一人ひとりが知っているルールやマナーを守って行動しましょう」と締めくくった。

交通安全教室に参加した6年生児童に感想を聞くと、「DVDを見て、街中には危険なことがたくさん潜んでいて怖いなと感じました。普段、自転車によく乗るので、クルマの動きに十分に注意したり、人の多いところでは降りて押し歩きしようと思います」「いろいろな事故の場面が出てきたので、事故に遭わないようにするには、自分がどう対応すればいいか考えることができました。今日、学んだことを普段できるようにしたいと思います」と話してくれた。「“知っている”から、“している”へ」というメッセージが児童に届いたといえるだろう。



小学校高学年・中学生の交通安全
「将来 社会で活躍する君たちへ」

活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記にお問い合わせください。
本田技研工業（株）
安全運転普及本部 開発普及課
TEL 03-5412-1150

DVDには導入と本編のほか、活用マニュアルも収録

荒田小学校校長 根木原俊明さんも、このメッセージが最も印象に残ったと話す。「どれだけ知っている、行動に移さなければ意味がないということです。子どもたちには『自分の命は自分で守る』という意識を強く持ってほしいと考えています。このプログラムを通じて、自分の命を守るためにやらなければいけない行動を理解できたはず。また、ルールやマナーを守ることが他者への思いやりにつながることを示唆する内容になっている点も良かったと思います」。

3・4年生と5・6年生を担当した指導員の前田さんはプログラムについて、映像が短い時間にまとめられ、子どもたちに守ってほしいルール・マナーが凝縮されている点を評価している。「子どもたちが飽きずに集中して見るのに最適の時間です。ただ映像を見るだけでなく、子どもたちが危険を見つけて、みんなの前で各々の意見を述べる、事故に遭わないようにするためにはどうしたらいいか、自らが考えられる点が良いと思います。また、子どもたちとコミュニケーションをとりながら進めることができる点も効果的だと感じています」。

プログラムは小学校高学年を対象にしているが、田丸さんは低学年にも十分理解できる内容だという。この日の交通安全教室では1・2年生に本編「歩き」を活用した。中学生が友人と歩いて塾に向かう映像の中で、歩行者としてのルール・マナー違反があった場面を見つけるといったもの。「低学年の子どもたちも映像の内容を理解して、危険な場面や違反をしている場面を答えてくれました。低学年に限らず、正しい行動を、全員ができていないわけではありません。これまで間違っていた行動をしていた子どもは友だちの意見を聞くことで、自分の間違いに気づけたと思います」。

今後、全国各地の小・中学校の交通安全教室で小学校高学年・中学生向けプログラムが活用され、児童・生徒の安全意識の向上に寄与することが期待される。



ルール・マナー違反した場面を答えようと手を上げる1・2年生の児童



鹿児島市立荒田小学校校長 根木原俊明さん



鹿児島市・安心安全教育指導員の前田靖代さん(左)と田丸博子さん(右)



1・2年生には本編「歩き」を活用し、歩行者のルール・マナーについて考えてもらう



自転車で通行する時に守ってほしいことを5つの「ゆ」として伝える鹿児島市オリジナルの手法



プログラム実施の後、校庭で人形を使った飛び出し事故の再現が行われた

交通安全指導者の知識と経験を
新たなプログラムの開発に活かす

交通安全教育プログラム勉強会は、参加者が相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、指導力の向上に役立ててもらふこと、参加者の知識と経験を新たなプログラムの開発に活かすことを目的としている。毎年開催しており、今年は19地区から交通安全指導者30人が参加した。小学校高学年・中学生向けのプログラムも、昨年の勉強会で得た様々な意見やアイデアが反映されている。

今回のテーマは「幼児向けプログラム」と「高齢者向けプログラム」。1日目は参加者が日頃から実施している幼児や高齢者向けの指導内容を紹介した(写真参照)。2日目は参加者が5つのグループに分かれて討議となる。「幼児向けプログラム」の討議では最初に Honda 安全運転普及本部のスタッフが、6歳以下の子どもの事故発生場所は「駐車場等」と「駐車場等以外」の割合がほぼ同じであること、駐車場で幼児が事故に遭った事例を伝えた。こうした現状をふまえて、駐車場で事故を防ぐために幼児に何を伝えるべきか議論してもらふ。一方、「高齢者向けプログラム」の討議は、参加者が高齢者を対象に実施した交通安全教室の好事例を出し合い、その時の伝え方など何が好事例につながる要素となったかを検証。そこを手がかりに、既存のプログラムや教材にはない新たな切り口を探った。最後に、グループごとに討議した内容を発表し、2日間にわたる勉強会は終了となった。

この勉強会で収集した意見やアイデアは今後、幼児および高齢者向けの新たなプログラムの開発に活用される予定だ。勉強会に初めて参加したという指導員の方は「いろいろな地域のノウハウを目の当たりにして、同じことを伝えるにも様々な表現方法があることがわかりました。皆さんの手法や教材を参考に、自分たちの指導内容を工夫しようと思います。また、グループ討議でまとめた私たちの想いが今後のプログラム開発にどのように活かされていくのか、とても楽しみです」と感想を語った。



香川県高松市の指導員は幼児向け交通安全教室で使っている手法を紹介



千葉県八千代市の指導員は道路の歩く場所を幼児にわかりやすく伝えるスライドを紹介



宮城県加美町の指導員は童話をモチーフに展開する幼児向け交通安全教室を披露



岡山県総社市の指導員は神経衰弱を活用して高齢者が交通安全を楽しく学ぶ交通安全教室を実演



グループ討議では参加者同士が活発に意見を交換



グループごとに討議した内容を発表